

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between household income and allergy development in children: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊婦の世帯収入と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患との関連:
エコチル調査より

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: International Archives of Allergy and Immunology

年: 2021 DOI: 10.1159/000519153

筆頭著者名: 小島 令嗣

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

社会経済的状況と子どものアレルギー疾患発症の関連については、これまでいくつかの研究が報告されているが必ずしも結果が一致していない。本研究では、世帯収入と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患発症との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した72,180名の妊婦のデータおよび生まれた子どもの3歳時のデータを解析した。世帯収入の情報は妊婦を対象とした質問票調査で把握し、生まれた子どもが3歳の時に医師に診断されたアレルギー疾患(気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー)の関連を多変量ロジスティック解析で解析した。

結果:

世帯収入が200万円未満であった場合、生まれた子どもの3歳時に気管支喘息とアトピー性皮膚炎を発症している割合は、400万円以上600万円未満と比べてそれぞれ高かった。一方、世帯収入が600万円以上の場合、3歳時に食物アレルギーを有している割合が高い傾向がみられた。

考察(研究の限界を含める):

本研究結果から、世帯収入が低いと、生まれた子どもの3歳時の気管支喘息やアトピー性皮膚炎の割合が高くなる可能性が示唆された。ただし、世帯収入が低い妊婦は、世帯収入が多い妊婦よりも追跡調査から脱落した割合が高い可能性があり、このような対象者の偏りに研究結果が影響を受けた可能性もある。さらに、生まれた子どもが3歳の時に医師に診断されたアレルギー疾患の有無については質問票で確認したが、保護者による申告に基づくものであり、医療機関に照会をしていないこと等も本研究の限界である。

結論:

世帯収入が低いことは、生まれた子どもの3歳時の気管支喘息やアトピー性皮膚炎の発症と関連した。また、世帯収入が高いと、生まれた子どもの3歳時の食物アレルギーの割合が高くなる傾向がみられた。